長野県のがんの現状と課題
― がん登録情報からの解析 ―

田仲百合子[1)], 赤羽昌昭[1)], 松原真紀[1)], 岩下由布子[1)], 小泉知展[1)]
伊藤渓亮[2)], 西垣明子[2)]

1）長野県がん登録室
2）長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1. 目的

長野県の75歳未満がん年齢調整死亡率は統計開始以降全国最低レベルを維持している。しかし、全国との差は縮まりつつあり、今後も低がん死亡率を維持していくためにはがんの現状について分析し、対策を講じる必要がある。

そこで今回、がん登録情報を用いて長野県のがんの現状と動向について分析し、課題について考察した。

2. 方法

1995年から2021年までの75歳未満がん年齢調整死亡率を長野県と全国で部位別、性別に比較し、がん死亡の動向を分析した。また2016年から2019年の全国がん登録情報を利用し、胃、大腸、肝、膵、肺、乳房、子宮、前立腺について、年齢調整罹患率、進展度、発見経緯、初回治療割合を全国と比較し、長野県のがんの特徴について考察した。

3. 結果

1995年から2021年の75歳未満がん年齢調整死亡率（全部位）は男女ともに長野県が全国を下回ったが、女性では全国との死亡率の差が縮まっていた。（図１）部位別にみると男性では膵臓、前立腺を除くすべての部位で長野県の75歳未満がん年齢調整死亡率は全国を大幅に下回った。一方、女性では膵臓、子宮を除くすべての部位で長野県の年齢調整死亡率は全国を概ね下回ったものの、近年の全国との差はわずかであった。

2016年から2019年のがん年齢調整罹患率（全部位）は男女ともに長野県が全国を下回ったが、男性では全国との差が大きかったのに対し女性では差が小さかった。（図２）部位別では男性の前立腺（図３）、女性の子宮(図４）女性の乳房（図５）を除くすべての部位で、全部位と同様に男性の罹患率は全国を大きく下回り、女性では全国をわずかに下回った。

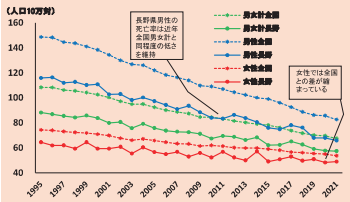

図1　75歳未満年齢調整死亡率（全部位）

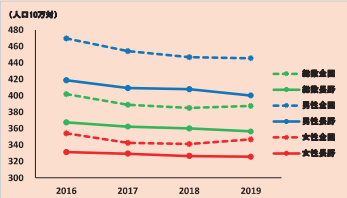

図2　年齢調整罹患率（全部位）

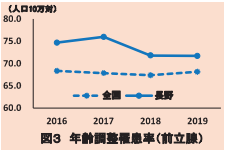

図3　年齢調整罹患率（前立腺）

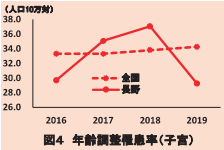

図4　年齢調整罹患率（子宮）

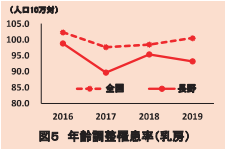

図5　年齢調整罹患率（乳房）

進展度（全部位）をみると2016年から2019年のすべての年で長野県の限局発見割合は全国を上回った。部位別では胃、肺、前立腺で限局発見割合が各年とも全国を上回った。特に肺ではその差が大きく、2017年の限局発見割合は全国35%に対し、長野県43%であった。（図6）また、肺では遠隔転移割合が各年とも全国を下回った。一方、大腸では限局発見割合がすべての年で全国を下回った。

発見経緯をみると胃、肺、乳房ではすべての年で検診発見割合が全国を上回った。一方、子宮頚ではすべての年で検診発見割合が全国を下回り、特に2016年には全国の検診発見割合が19%であったのに対し長野県13%であり、検診発見割合の低さが目立った。（図7）

初回治療割合では肺、乳房で観血的治療の割合が各年とも全国を上回ったのに対し、子宮頚では各年とも全国を大きく下回り、特に2016年には全国52%に対し長野県41%と観血的治療の割合が大幅に低かった。（図8）

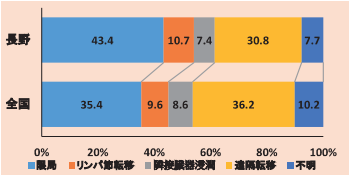

図6　進展度内訳（肺　2017）

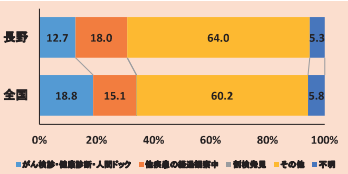

図7　発見経緯（子宮頚　2016）

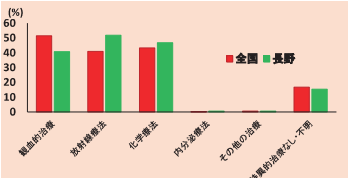

図8　初回治療内容割合（子宮頚　2017）

4. 結論

長野県のがん罹患率、死亡率はともに女性で全国との差が縮まっており、部位別では大腸、子宮頚でそれぞれ早期発見割合、検診発見割合が全国と比較して低いという問題点が見つかった。これらの部位は女性のがん罹患、死亡の上位を占めており、国の対策型検診の対象部位でもあることから、早期に検診受診率の向上等の対策をとることが長野県の低がん死亡率の維持に重要である。